



サニークォーター 酸素ボンベ用 [取扱説明書]

この取扱説明書は必ずお読みいただき、大切に保管してください。

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この説明書の内容をよくお読みいただき、
充分ご理解の上、ご利用ください。

目次

ご使用前の注意（点検）	1	腰掛け方	5
警告事項	1	傘立ての使い方	5
各部の名称	2	こんな時には	5
車体のひろげ方	3	ご注意事項	6
車体の折りたたみ方	3	環境	6
酸素ボンベの取り付け方	3	使用中	6
押手の高さ調節	4	使用后	6
手元ブレーキの操作方法	4	保管・お手入れ方法	6
ブレーキの調整	4	保全	6
ストッパーの操作方法	4	廃棄	6
キャスターの操作方法	4	保証書	7

この説明書に関しまして、ご不明な点やご質問などがありましたら、
弊社サービス係、またはご購入店までお問い合わせください。

株式会社 島製作所 サービス係 ☎06-6793-0991

ご使用にあたっては、体調の状態により危険なこともありますので、ご自身の体調の状態で使用できるかご判断ください。

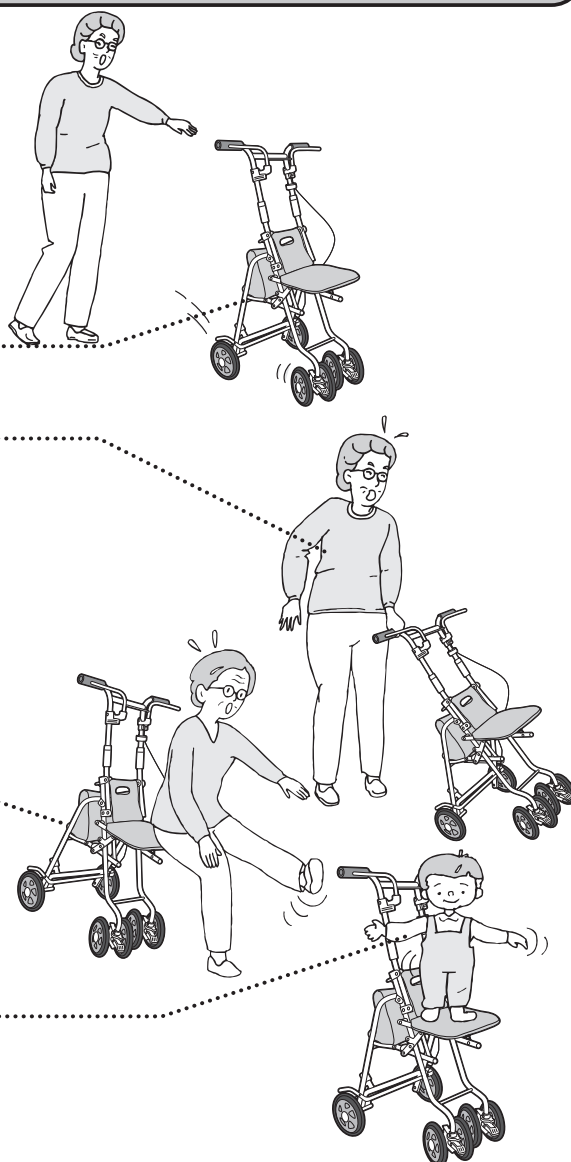
転倒や故障の防止のために、下記の事項を必ず守ってください。

⚠️ご使用前の注意（点検）

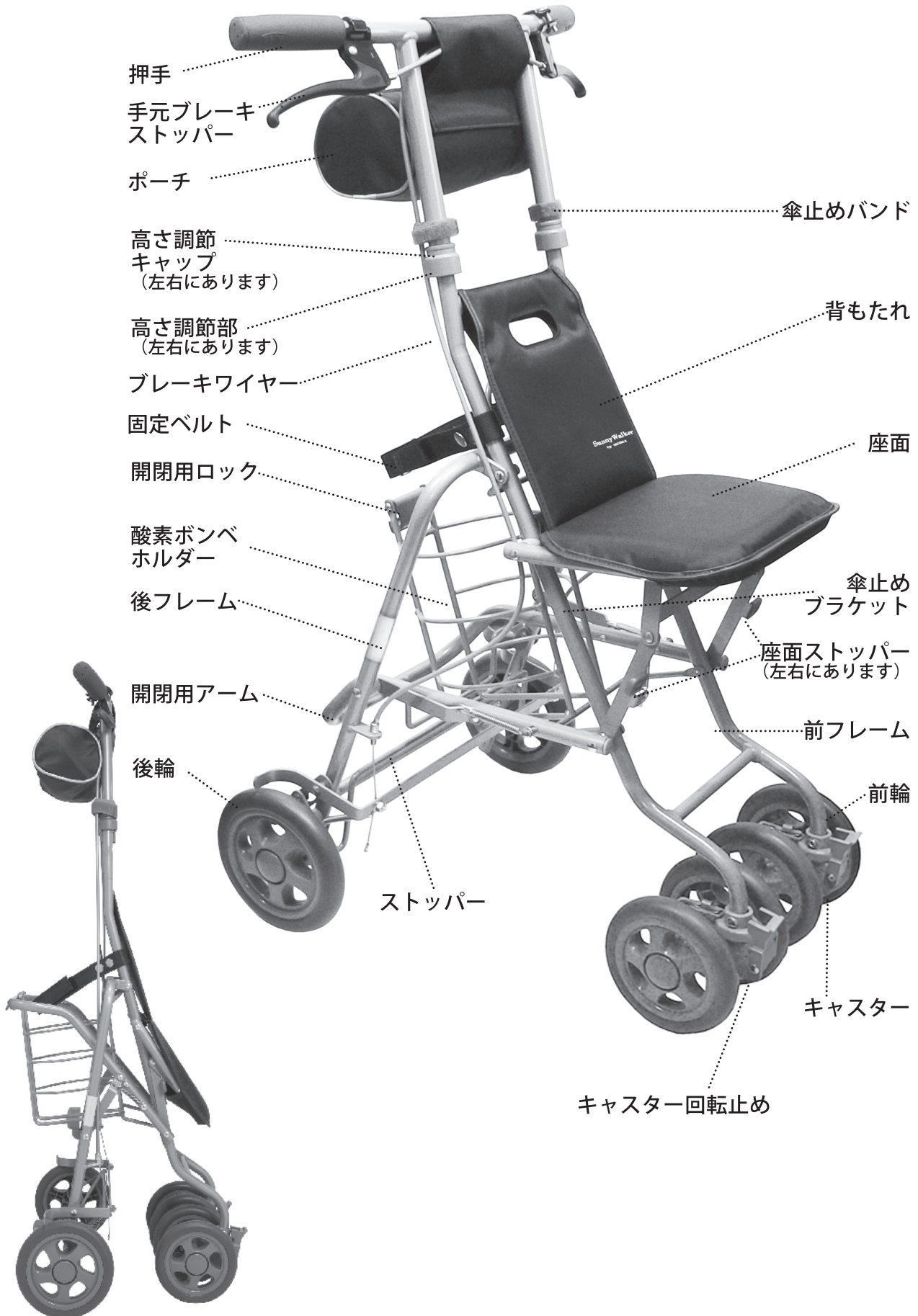
- 広げる時などの開閉操作を行う際には、幼児を近づけないでください。
- 組立調整は確実に行ってください。
- 製品各部を点検し、特に手元ブレーキ、ストッパー及び左右両輪の性能についてはご自身で充分確認してください。
- タイヤ及びブレーキの摩耗等がないかを保守・点検し、必要に応じて調整又は交換してください。
- 各部のカシメ鉋、ネジ、ナットがゆるんでいないか確認してください。
- 開閉用アームが確実にかかっているか確認してください。
- 押手の高さ調節部（左右）が固定されているか確認してください。
- 最大使用者体重は80kg以下とします。

⚠️警告事項（思わぬケガの恐れがあります）

- 雨、雪、凍結等すべりやすい所では使用しないでください。
- 階段や溝、段差のある所、エスカレーター等では使用しないでください。
- 交通の頻繁な所、混雑している所及び夜間の使用は充分注意してください。
- 坂道、線路の横断での使用は充分注意してください。.....
- 押手に寄りかかったり、過度の荷重をかけた場合、車体のみ前に動くことがあります。.....
- 座面を使用する場合は、必ずストッパーを左右両輪に掛け、車体が動かないことを確認してください。
- 座面の強度は80kgまでです。また、座面以外の所には座らないでください。
- 最大使用者体重は80kg以下とします。
- 坂道など斜面では座らないでください。
- 座面に浅く座らないでください。.....
- 座面から立ち上がる時は、車体が動かないことを確認してゆっくりとおこなってください。
- 幼児の手の届くところに置かないでください。
- 幼児や子供に操作をさせないでください。また、座面上に立たせないでください。.....
- 坂道など斜面では駐車しないでください。
- ボンベホルダーには、ボンベ以外のものを載せないでください。



各部の名称

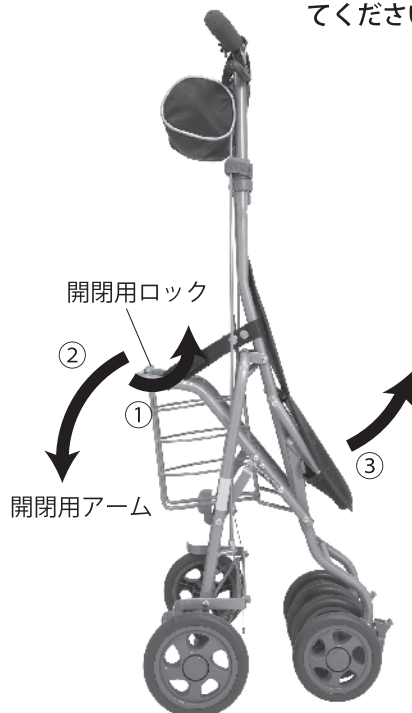


車体のひろげ方・折りたたみ方

- ①開閉用ロックを矢印のように外してください。
- ②開閉用アームを降ろします。

- ③座面を矢印の方向に引き上げてください。完全に固定される所まで上げてください。ブレーキワイヤーなどが引っかかり広がらない場合がありますので注意してください。

両側の座面ストッパーがカチッと音がして確実に掛かっているか確認してください。



押手

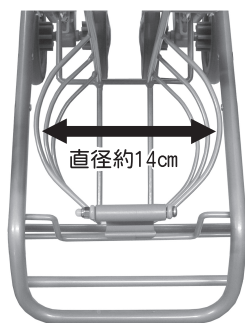


折りたたむときは、座面ストッパーを押手側に引くと座面がたためます。開閉用アームを持ち上げ、開閉用ロックで固定してください。

- 注** 開閉用ロックが確実に掛かっているか確認してください。使用中、不意に折りたたまれる場合があります。

酸素ボンベの取り付け方

ベルトでボンベをしっかりとめてください。



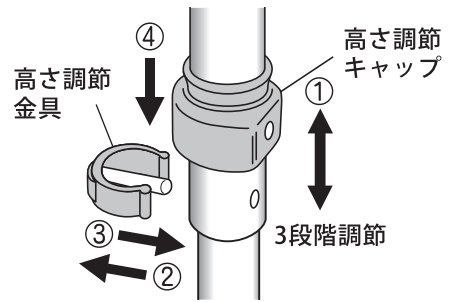
▲イメージ撮影のため、酸素ボンベを裸にて使用しています。



使用できるボンベのサイズは
長さ：約50
直径：約11.4までです。

- 注**
- 使用中ベルトがゆるんでいないか確認してください。
 - 酸素ボンベを載せたまま折りたたまないでください。転倒してボンベが破損する恐れがあります。

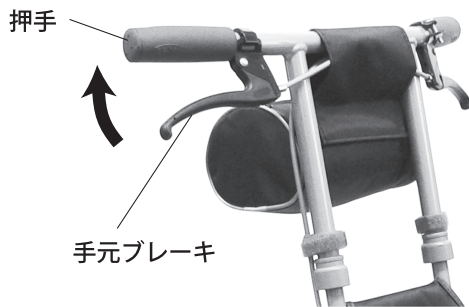
押手の高さ調節



1. 左右の高さ調節キャップを上げてください。
2. 高さ調節金具を抜いてください
3. 3段階から、お好みの高さに合わせてたら、左右の高さ調節金具をしっかりはめこんでください。
4. 左右の高さ調節キャップを元の位置に戻してください。

注 左右同じ高さであることを確認して固定してください。

手元ブレーキの操作方法

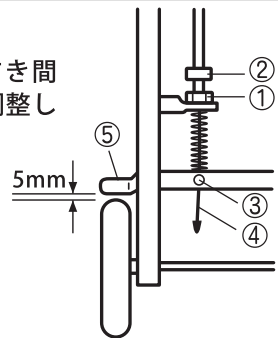


手元ブレーキをにぎれば、後輪にブレーキがかかります。

- 注**
- 押手と手元ブレーキの間に指を入れたまま操作しないでください。
 - ブレーキは構造上、自動車のブレーキのように効かないので過信しないでください。
 - ブレーキワイヤーをひっかけたりしないでください。ひっかけたりすると、折れ曲がりブレーキのきき具合が悪くなります。

ブレーキの調整

ブレーキ金具と車輪のすき間が5mm位になるように調整します。



■ブレーキをきつくする時

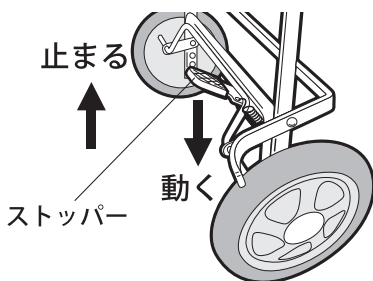
②を回して調整し、①を上図の位置に戻してください。

なお不十分な時は、②を最初の状態に戻し、③をゆるめてから⑤を車輪に近づけた状態でワイヤー(※)を引っ張って、③を締めてください。

■ブレーキをゆるくする時

②を回して調整してください。

ストッパーの操作方法



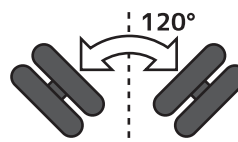
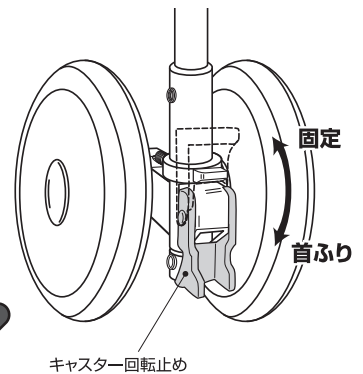
1. ストッパーを上にあげると、後輪がロックされます。
2. ストッパーを下に下げるとロックが解除されます。

- 注**
- ストッパーのかかった状態（後輪がロックされた状態）で車体を押さないでください。
 - 座る場合や車からはなれる場合は、必ずストッパーを掛けてください。
 - 構造上、自動車のブレーキのような停止効果はありませんので、坂道などでは腰掛けないでください。

キャストの操作方法

押しながら曲る方向に力を入れれば約60°の角度で止まり、力を抜けば直進方向に戻ります。キャスト回転止めをあげるとロックされます。

- 注**
- キャスター回転止めが左右同じ状態かを確認してください。



腰掛け方

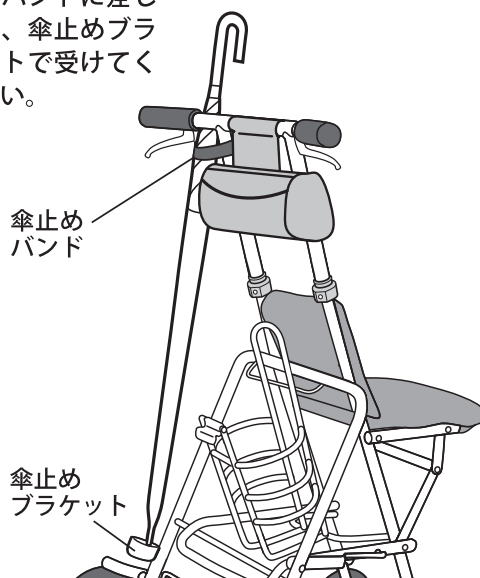


注

- 両側の開閉ロックが正常にかかっているか確認してお座りください。
- 必ずストッパーを掛けてからお座りください。
- 腰掛ける時は、均等に体重が加わる様に座面の中央にお座りください。
- 浅く座ったり、背もたれに力をかけすぎた場合、車体が動いてバランスがくずれる恐れがあります。ご注意ください。
- 坂道など斜面では座らないでください。
- 最大使用者体重は80kgです。体重80kg以上の方はご使用しないでください。

傘立ての使い方

1. 長い傘やツエは傘止めバンドに差し込み、傘止めブラケットで受けてください。



こんな時には . . .

状 況	原 因	対処方法
押手がグラグラと動く	(日)開閉用ロックが確実に掛かっていない (月)押手の高さ調節部がきちんと固定されていない	(日)開閉用ロックが確実に掛かっているか確認してください (月)押手高さ調節部分の固定金具が、穴にきちんとセットされているか、確認してください
手元ブレーキが効かない	(日)タイヤの摩耗 (月)ワイヤー止め位置のズレ	(日)車輪の交換 (サービス係へ) (月)ブレーキのワイヤー調節を行なってください
ストッパーが効かない	(日)ブレーキ金具のねじれ、曲がり (月)バネの劣化 (火)車輪の破損 (水)連結部のサビ	(日)ねじれ、曲がりを修正してください (月)バネの交換 (火)車輪の交換 (サービス係へ) (水)注油する (注) 使用中、少し前後に動きます
キャスターが回転しない	(日)キャスターの回転軸に、土や砂が混入 (月)バネの劣化	(日)キャスター (前輪) を手で回転させて、土や砂を落としてから、回転軸の注油穴に油を差してください (月)バネの交換
その他、車輪の交換や車体の破損など		当社サービス係にて製品の修理または部品の交換を行います

万一、破損・異常が発生した場合、または発見した場合は、そのまま使用せずに、当社の点検・修理を受けてください。

⚠️ 注意事項

〈環境〉

- 雨風の強い時、また傘を持ちながらの片手では使用しないでください。
- 火の近くでの放置はしないでください。樹脂が変形し、性能を維持できなくなります。
- 自動車、バス、電車の中では使用しないでください。
- 砂、泥のある場所、とくに水たまりでは使用しないでください。また、放置しないでください。

〈使用中〉

- 使用中ポンペを止めるベルトがゆるんでいないか確認してください。
- 酸素ポンペを載せたままで折りたたまないでください。転倒してポンペが破損する恐れがあります。
- ポーチに1kg以上の荷物を入れしないでください。
- 開閉などの操作時には、幼児や子供を近づけないでください。
- 座面強度は80です。（最大使用者体重80までです）
- 座面に人を乗せたままで押さないでください。
- 座面以外の所には座らないでください。
- 押手と手元ブレーキの間に指を入れたままでブレーキ操作をしないでください。
- ブレーキは自動車のブレーキとは構造的に違いますので、過信しないでください。
- 座面を踏み台として使用しないでください。
- ストッパーがかかった状態で押さないでください。
- 車体からはなれる時は、必ずストッパーをおかけください。
- 前輪を持ち上げた状態では使用しないでください。
- 車体を閉じる時は、手をはさまないように注意してください。
- 座面を使用する場合は、必ず駐車用ストッパーを左右両輪にかけてご使用ください。

〈使用後〉

- 雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因となります。
- 雨水にぬれた場合は、拭きとってください。
- フレームに砂や泥をつけたまま放置しないでください。

〈保管・お手入れ方法〉

- 車輪についた泥や汚れなどは、そのまま放置しないで、必ず落としてください。
- よく絞った布で、土やほこりをふき取ってください。
- シンナー、ベンジンなどの揮発性溶剤を使用しないでください。
- 乾いた布で水分を取り、日陰で乾燥してください。
- 袋部の汚れは、柔らかい布でふいてください。
- 車輪や車体がきしむ場合、連結部等に数滴注油してください。
（注油後、開閉操作を2・3回くりかえしてください）
- 長時間使用しない時は、汚れを落とし、日陰で保管してください。
- 寒い時、暑い時戸外に置かないでください。袋部が変色したり、硬化して開閉できなくなることがあります。
- 説明書は本体とともに保管してください。
- 本製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡してください。

〈保全〉

- 非常口、消火器、消火栓の前に放置しないでください。
- 各部の破損、ゆるみ、摩耗がないか確認してください。
- 幼児や子供の手の届く所には放置しないでください。
- 当社のサービス員以外の分解、組立、改造はしないでください。

〈廃棄〉

- 廃棄については各自治体の指示に従って処分・廃棄してください。



